

令和4年度 学校評価書

東温市立西谷小学校  
令和5年1月31日

- 1 学校の教育目標 心豊かにたくましく生きるにしだにっ子の育成
- 2 経営の基本方針 健康で明るく主体的に学ぶ児童の育成

	評価項目	評価の観点	評価（4段階）			考察及び改善方針（○：考察、●：改善方針）	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校への対応	1	生徒指導体制づくりを行い、アンケートや教育相談、家庭との連携等をもとに、児童の心の状態の把握に努め指導に生かした。	3.7	3.6	3.6	<p>○ 学校生活アンケート等を基に、教師が児童の状態を常に把握しており、教育相談を行い、早期発見・解決に努めるなど、全教職員が連携を取りながら適切な対応ができています。</p> <p>○ 校内での挨拶は定着できているようなので、地域でも元気の挨拶ができるように、指導を継続していただきたい。地域の方々とのコミュニケーションや礼儀はとても大切で、自然な形で挨拶や会釈ができるようになればよい。</p>
	基本的生活習慣の定着	2	挨拶指導の継続、月目標の実践化、即時対応を心掛け、児童の基本的生活習慣の定着に努めた。	3.7	3.6	3.7	
	逃げずに踏んばる態度の育成	3	多様な体験活動や根気強くやり遂げる経験を通して、逃げずに踏んばる態度を育てよう取り組んだ。	3.6	3.4	3.5	
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	4	学習形態や教具等の工夫、学習習慣づくりを行い、全員が活動して分かる場を設定した。	3.7	3.1	3.1	<p>○ 学習に関してどんどん進めることができる子どもと、つまづく子どもの二極化が見られる。全学年が複式授業のため、指導する教師も授業内容の精選や指導法の工夫等、大変苦労していると感じる。</p> <p>○ 家庭での教育力が低下していると思われる。保護者に協力を呼び掛けることも大切だが、児童自身に目標を持たせ、タブレットパソコン等を活用して自分でできることを工夫させたい。</p> <p>○ 児童と保護者の評価が低く、教職員とのギャップが見られる。学習についていけないと感じる児童が「できた」と感じる場面を多く取り入れてほしい。</p>
	家庭学習の充実	5	家庭学習の実施状況の把握、宿題の内容の検討、自主勉強の奨励、家庭との連携、個別の対応等により、家庭学習の充実を図った。	3.6	3.1	3.1	
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	6	問題解決的な学習や体験活動を展開し、学ぶ力を高めるよう取り組んだ。	3.4	3.1	3.5	
	学力向上推進	7	間違いの多かった問題に類似した問題を準備して、繰り返し学習させ、学力の定着に努めた。	3.7	2.8	3.4	
豊かな心と健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	8	教育活動全体と道徳の時間の関連を図る年間の計画をもとに、自己の生き方を見つめさせたり、家庭と連携を図ったりしてよりよく生きる態度を養った。	3.6	3.4	3.7	<p>○ 学校から家に帰ってからの過ごし方に課題があるように思われる。最近、児童は家の中で過ごすことが多いのか、外遊びをしている姿をほとんど見掛けなくなった。登下校も車で送り迎えをしている児童も多いようである。</p> <p>○ No.11の「体力づくりに取り組んだ」の項目は、保護者の評価が低い。運動の習慣化について、家庭への協力を更に呼び掛ける必要がある。家族と共に会話をしながら、ウォーキング等の運動を始めるなどして、児童の体力を高め、併せて児童の心の健康にもつながっていくと期待している。</p>
	仲間づくり・集団づくり	9	コミュニケーション能力の育成を図る年間の計画をもとに学級活動や学級経営、キラリン班活動等全校的な活動を充実してよりよい集団づくりに努めた。	3.7	3.6	3.7	
	心と体の健康づくり	10	元気モリモリ貯金を通して「早寝・早起き・朝ごはん」の定着、学校保健委員会の開催など年間を通した心の健康づくりに取り組んだ。	3.6	3.4	3.5	
	体力づくり	11	体育の授業を充実させたり、大会に向けた水泳練習、陸上練習、マラソン練習等を実施したりすることにより、体力づくりに取り組んだ。	3.7	3.3	3.1	
特別支援教育	特別支援教育の充実	12	校内の支援体制を充実し、全教職員や専門家との連携のもと、一人一人の教育的ニーズに応じて、必要な支援を行った。	3.7	3.2	3.5	<p>○ 西谷小は、幼稚園が隣接し、幼・小の連携や少人数のメリットを生かした活動が実際にできている。また、支援を受ける児童だけでなく、周囲の児童にとっても、良い学びの場となっていると感じる。</p>
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	13	登下校の安全やマナーに対する指導、家庭・地域と連携した見まもり活動等の充実に努め、安全な登下校の奨励に取り組んだ。	3.6	3.6	3.6	<p>○ 「安全・安心な教育、環境の整備」については、教職員・児童・保護者が共にとても高い評価であり、安心した。</p> <p>○ 児童の見守りについて、道沿いにお住まいの方に児童の登下校の時間帯を広報等で伝えし、無理のない範囲で出てきていただくようお願いすることはできないか。また、地域で日中に散歩している方を見掛けることがあるので、その方に児童の登下校の時間に合わせて歩いていただけるよう声を掛け、協力を依頼したい。</p>
	防災教育の充実	14	避難訓練や学級活動、教職員研修を充実し、自ら判断し行動し、お互いが力を合わせて命を守り、困難を乗り越えることができる力を育むよう取り組んだ。	3.7	3.9	3.8	
	危機管理意識の高揚	15	毎月の「にしだにハート&はーと」や「安心・安全週間」を中心に、教職員の危機管理意識を高め、教育環境の整備をするとともに、児童の危機意識の高揚に努めた。	3.7	3.5	3.8	
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	16	コミュニティスクールの推進の基、地域との協力体制を充実し、地域・家庭と息の合った教育活動の充実に努めた。	3.7	3.8	3.7	<p>○ No.16の「地域・家庭と息の合った教育活動の努めた」の項目については、昨年度より3者共に評価が上がった。自然体験活動や稲作活動、三世交代交流会等で地域・学校・家庭とのつながりが深く、それぞれの活動を通じて、支えてくださる方々への感謝の気持ちを再確認できた。</p> <p>○ 校報や学年便り、ホームページなどを活用して、活動内容や児童の様子を積極的に家庭にお知らせしている。特に、ホームページでは、ほぼ毎日更新し、タイムリーに学校の様子や県、市からの情報を伝えている。</p> <p>○ 見守り活動や学校環境整備などにおいて、コミスクの特性を生かした実践が実現し、学校運営改善において効果があつた。今まで以上に学校運営協議会との連携を充実させていくとともに、保護者へもコミスクの仕組みや実践の報告などを周知していき、学校、家庭、地域の連携をさらに強めていきたい。</p>
	情報の共有化	17	児童について積極的に家庭と連絡を取り合ったり、学校の教育方針や教育活動等について、校報、各便り、HP等を活用して地域・家庭との情報の共有化に努めた。	3.7		3.3	
特色ある学校づくり	「緑の少年隊活動」等を生かした地域とともに歩む教育	18	毎朝のボランティア活動を始めとする緑の少年隊の活動や各教科等での学習を生かし、自他の命を大切にしたり、身近な環境を大切に気付けたりするよう取り組んだ。	3.9	3.6	3.8	<p>○ No.18の「自他の命の大切さ」については、3者共に評価が高い。「緑の少年隊」の活動は、本校の特色であり、他の学校ではできない活動が充実している。児童も様々な活動を通して、環境や生命の大切さに気付くことができています。今年度は、例年以上に花苗を育てることができ、校内だけでなく、通学路の路側帯に植えるなど地域の環境美化にも努めた。地域の協力を得て、稲作活動やシイタケ栽培などの多くの体験活動を実施することができた。</p> <p>○ No.19の「自然体験教室」については、今年度、3年ぶりに実施することができ、季節に合わせて4回、ホタル・星空の観察や七夕飾り、ハロウィン、しめ縄飾りづくりなどの内容を行って来た。多くの児童や保護者が参加し、充実した活動になっている。</p> <p>● 今年度の自然体験教室は、手探り状態での実施であった。来年度以降、限られた条件の中で、できるだけ多くの児童が参加できるよう、更に充実した活動となるように実施回数や内容等を検討しながら計画を立てていきたい。</p>
		19	学校と家庭と地域とが一体となって取り組む自然体験教室の活性化に努めた。	3.7	3.2	3.5	
施設・設備の充実	教育機器の有効活用	20	一人一台タブレットパソコン等、ICT機器の有効活用に努めた。	3.7	3.6	3.3	<p>○ No.20の「教育機器の有効活用」については、市の全小中学校に、「ワイード」（黒板に投影できる機材）を導入し、デジタル教科書を投影して活用したり、大型テレビモニターを使用し、企業や他校と通信したりして学習を行った。また、一人一台のタブレットパソコンを活用し、授業における復習や調べ学習に活用しながら、知識や技能を磨くこと、思考力を磨くことに役立っている。</p> <p>● 今後は、タブレットパソコンを家庭への持ち帰った際の接続に関する不具合の解消やコミュニケーションツールとしての活用方法を模索するとともに、教職員の指導力や環境を整えていきたい。</p> <p>○ No.21の「調和と潤いのある学校環境」については、教職員は0.6、児童・保護者は0.4ポイント上がった。教職員と児童の手で草花等を植え、大事に育てており、夏休みには奉仕活動で清掃や草刈りなど、美しい環境を整えている。また、小規模校のため、少人数ではあるが、緑化活動等に全教職員で取り組み、充実した環境を整えていくために努めることができた。</p>
	学習・生活環境充実への取組	21	人的管理・物的管理・事務処理に留意し、学校全体が、調和と潤いのあるよりよい教育環境となるよう取り組んだ。	3.7	3.8	3.8	

※ ゴシックは学校における重点項目、アンダーラインは重点項目に関連する内容